

5年生「スーパーグローバル」IDEC 連携プログラム

第3回実施報告

日 時：2017年9月30日（土）13:00-16:00

場 所：広島大学附属福山中・高等学校内情報教育棟 マルチメディアホール

参加者：生徒19名，留学生1名，大学教員2名，本校教員4名

実施内容

第3回 IDEC 連携プログラムでは、これまで発表していただいた留学生の研究課題に対し、本校の生徒が多文化比較や国際理解の観点から、議論をしていきたい内容について、その課題設定を発表しました。今回は、4つテーマについて発表が行われました。

「FOOD LOSS」をテーマとした班では、世界の飢餓問題の改善について、FOOD LOSS の観点から考察を行いました。食品廃棄が増える一方で飢餓に苦しんでいる人がいることと、そのような問題に対して日本では NO-FOODLOSS PROJECT などの活動が行われているが、それが世間に周知されていないことを紹介しました。「Review Laos' Insurance」をテーマとした班では、留学生が前回発表したラオスの保険制度について、日本の保険制度と照らし合わせながら、解決すべき課題と、それを乗り越える新たな保険制度の考察を行いました。「Agriculture of Liberia」をテーマとした班では、留学生の発表にあったリベリアの農業問題について、日本の JA のような組合による支援が必要であることを主張しました。また、ササカワ・アフリカ財団などが他国の支援を行っているのにもかかわらずリベリアへの支援が無い理由について、国内情勢の点から考察を行いました。「Conflict in Reduction of Carbon Dioxide Emission」をテーマとした班では、温室効果ガス削減と発展途上国の経済成長との関係を問題とし、京都議定書やパリ協定の結果などを参照しながらどちらを優先すべきかについて考察を行いました。

各班の発表終了後には、質疑が行われました。留学生の方からは大学院生の視点から、クリティカルな指摘をいただきました。質問を受けた生徒は、その質問に感嘆しながらも、先行研究などを踏まえて自分たちの考えを主張していました。また、広島大学の清水先生、中矢先生からは、質問のみならず、研究方法や発表の構成についてもご指導をいただきました。特に、研究の目的を明確にすることで、課題や方法が明らかになり研究に一貫性が生まれるというご指導は、まだまだ研究に対して未熟な生徒にとってとても重要な視点であると感じました。その他、生徒同士での



質疑も行われ、盛り上がりを見せました。厳しい指摘も多くありましたが、終了後も残っていただいた清水先生の方へ質問に行く生徒も多く、このプログラムに対して主体的に粘り強く取り組む姿が印象的でした。

【参加者の声】

- 様々な問題が浮上してきた。自分たちでやった分、感覚的に強く感じる事ができた。厳しかったが達成感を感じられた。次にまたあるので直して臨みたい。目的を持ち、結果を受け入れ修正していきたい。
- 私たちのグループはスライド資料を完成させることだけを目指して、責任のある内容を十分に入れることができなかった。今回頂いたアドバイスを参考にもっと良いものを次回は作り上げたいと思った。また、プレゼン発表の後の質問において、質問者が知りたい答えをきちんとと言えなかった。知識不足と、まだまだ英語の会話能力が足りていないと感じた。自分のしっかりとした意見をもって今回の IDEC に臨むことができなかったので、次回は後悔しないように準備して、もっと積極的に議論に参加したい。
- まず、下調べが不十分だと思いました。もっと、自分たちがプレゼンすることについて知っておくべきでした。また、自分たちのプレゼンの筋が通っているか、パワーポイントが適切に使えているかなどを確認しておくべきでした。先生からのアドバイスで、プレゼンの内容だけでなく、プレゼンの仕方まで改善点を知ることができて良かったです。また、他のグループのプレゼンを聞いて、自分がクリティカルに意見を持つことが難しく、うまくできなかったのも、先生のようにもっとクリティカルに考える力もつけたいです。
- 今回のプレゼンでは考えが全くまとまっておらずとても分かりにくい発表になってしまった。数値のものは視覚的に捉えるほうが分かりやすいし、話の軸を整えることも大切だと思った。また、1つのプレゼンを完成させるまでにいろいろな情報を仕入れる必要があると思った。そして一番初めのつかみのスライドは伏線的なものであり、興味をひくものであるほうが良いし、広く話すよりも深く話すほうが良いことを学んだ。
- 今日のプレゼンテーションを聞いて、次回自分たちがプレゼンをするときには「目的」をはっきり持つことを意識しようと思いました。普段このようなプレゼンテーションをする際、自分が調べて面白い、引きつけられると思った情報を何でも入れていることを反省しました。その情報を入れることが、目的となり、プレゼンの「目的」のためにどんな情報が必要かを深く考えていなかったことに気がつきました。また、自分達がプレゼンをする時には、「テーマ」を絞り込むことを意識したいと思います。調べたことに対して、さらに疑問を持つことを大切にしたいです。また、せっかく留学生に来ていただいたので、もっとその問題に関するその国の情報を聞けばよかったなと思いました。
- 今回の活動を通し、一見筋が通っているプレゼンにも沢山の改善点があったり、不明瞭な点があったりしたことに驚いた。先生方の意見を聞くと、別の視点立場から見てみると思考の材料が足りないこともあったりして、プレゼン作りの難しさを感じた。また、今回の活動ではプレゼンの内容や構造的な面だけでなく、データの示し方などについても学ぶことができた。今回学んだことを活かし、次回プレゼンをする時に役立てたい。

